

# 仕 上 げ る

## 塗装は何のためにするか

木材を塗装する目的は、大きく分けると二つあります。木材を汚れ、腐れなどから保護するためと、木材を一層美しく化粧するためです。普通は保護と化粧の両方の目的で塗装しますが、製品の種類、用途によってその目的の度合いは異なります。例えば、木製遊具、羽目板などで使うものは保護を、一方、家具などは化粧を重視した塗装をします。当然ですが、その目的により塗料、塗装方法は変わります。ここでは、テーブル、本棚など日曜大工で比較的簡単に作れる木製品の、主に木目を生かす透明塗装について説明します。

## 塗装に使用する用具

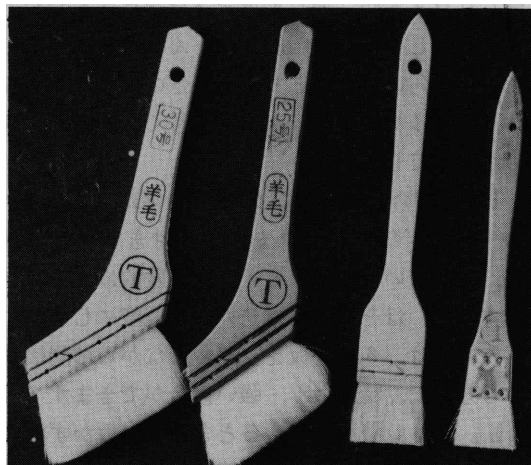
塗装には用具が必要です。その種類は多いのですが、最低限必要なものでDIY店、街の塗料店で一般に売っているものについて説明します。

### (イ) サンドペーパー（以下ペーパー）

塗装面を平滑できれいにするにはペーパーで研磨します。ペーパーは、例えば120番というように、番数で粗さを表します。数値が大きいほど細かく、より滑らかな研磨面が得られます。1枚（23cm×28cmの大きさ）30円\*程度で売っています。

### (ロ) 刷毛

刷毛には色々な種類、大きさがあり、専門家はそれぞれ使い分けますが、日曜大工では羊毛ニス刷毛（白毛ニス刷毛、ニス刷毛とも呼ばれる）が価格も安く使いやすいでしょう。刷毛の大きさは幅を号数で表し、号数が大きいほど幅が広がります。日曜大工では写真1に示すような、25～30



筋違い刷毛30号 同25号 平刷毛10号 同8号  
写真1 羊毛ニス刷毛

号（60～70mm）の筋違い刷毛（400～500円）と8～10号（24～30mm）の平刷毛（200～250円）があればよいでしょう。

### (ハ) 塗料用カップ

塗料は口の狭いビン、缶に入っていることが多く、使う時は広口の容器に移した方が便利です。専用のポリカップ（100円/11用）も売っていますが、広口のビン、缶（サビの無い）でも使えます。使い捨てなら牛乳パック、紙コップでも使えますが、ポリコップは溶けることがあります。

## 使用する塗料の種類

日曜大工ではセラックニス（以下ニス）、ニトロセルロースラッカー（以下ラッカー）、ポリウレタン塗料、アクリル系塗料がよく使われます。しかし、商品名では、例えば“木部用ニス”というように、塗料が違っていてもニスという名が付いていることが多く、この点は注意して下さい。

\*価格はすべておおよその小売価格



写真2 市販されている塗料の展示例

#### (イ) ニス

以前は多く使用されましたが、水や熱に弱いため最近は減少しています。熱いものを置くと白くなります。使いやすいのが特徴です。

#### (ロ) ラッカー

ラッカーも以前から多く使われ、日曜大工用に適した塗料の一つです。一液型（使用時 2種類の塗料を混ぜない）のため使いやすく、光沢もあり塗膜性能もニスより優れています。しかし、熱にはあまり強くないのでテーブル天板には不向きです。また、乾きが早いので手早く塗装することが必要です。下塗り用と上塗り用（いずれも540円/300cc）があります。

ラッカーに顔料を入れた塗料はラッカーエナメル（900円/250cc）と呼ばれ、光沢があり美しい色彩が得られます。カラーボックスのように木目を塗りつぶす不透明塗装に使います。

#### (ハ) ポリウレタン塗料

最近家具に多く使われている塗料です。水、熱に強く塗膜性能は非常に優れています。一液型と二液型（使用時 2種類を混ぜる）があり、一般に一液型は床、建築用に、二液型は家具に使われています。しかし、一液型は使いやすいためDIY店ではこちらが主で、着色剤を入れて、例えばチーク色というように、銘木調に着色塗装する塗料として売っています。二液型には塗膜の艶の程度が異なる種類があり、好みに応じて選べます。下塗り用（1, 250円/400g）と上塗り用（2, 900円/

kg）があります。

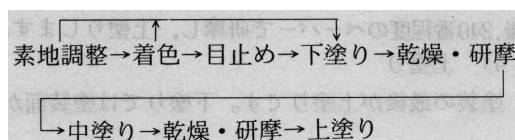
以上説明したニス、ラッカー、ポリウレタン塗料は、刷毛の洗浄や薄め液としてシンナーが必要です。シンナー（800円/1）は塗料の種類で異なるので注意して下さい。

#### 4) アクリル系塗料

“水性ニス”というような商品名で売っているアクリル系塗料は、水に溶けるため使いやすく、洗浄も容易です。しかし、シンナーを使う溶剤型に比べ光沢が落ち、仕上げ面も悪くなります。

### 塗装の順序・方法

塗装は手をかけるほど良い仕上げができるというのが常識です。高級家具では多くの工程をかけますが、一般的な家具は次のような工程です。



日曜大工ではこのすべてを行う必要はなく、目的と必要性に応じて行うとよいでしょう。

#### (イ) 素地調整

素地調整とは塗装する面の汚れを落とし、平滑にする作業です。大切な工程で塗装の仕上げを左右します。穴、割れなどがあればウッドパテで埋め、それから研磨します。研磨するペーパーは、木材の表面が粗い時は80～100番を、仕上げは240番程度を使います。平らな部分の研磨は木切れ（厚さ2～3cm、幅5～6cm、長さ9～10cm）にペーパーを巻くか、又は木切れに布を一巻きしてペーパーを巻いて研磨します。湾曲部分や角の部分は指でペーパーを押さえ研磨します。木の目に沿って研磨するのが基本です。

#### (ロ) 着色・目止め

着色と目止めは必要に応じて行います。着色は油性着色剤（オイルステイン）が鮮明な木目が出てよく使われます。ケヤキ色など銘木調に着色するオイルステイン（720円/270ml）が売られています。目止めは木材の道管を埋め平滑な面を得るため、との粉（80円/200g）に水を混ぜ、刷

毛で塗り、布で拭き取るのが簡単です。また、目止めに着色剤を入れて着色と目止めを同時に行うこともあります。しかし最近ではオープンポア仕上げといって目止めをしないで、より自然な木の味を出す塗装が増えています。

#### (ハ) 下塗り・中塗り

この工程から塗料を塗ります。ウッドシーラーで下塗り後、サンディングシーラー（塗料の種類で述べた下塗り用はこの種類）で中塗りするのが一般的な家具の塗装ですが、日曜大工ではそこまでやる必要はないでしょう。すぐ上塗りという方法もありますが、良い仕上げを得るには一度サンディングシーラーを下塗りして、平滑な面を作った方がよいでしょう。塗る量は1m<sup>2</sup>当たり70～80gが目安です。塗布後4～5時間して塗膜が硬化後、240番程度のペーパーで研磨し、上塗りします。

#### 4) 上塗り

塗装の最後が上塗りです。下塗りでは塗装面が

多少凹凸でも研磨しますが、上塗りは最後ですからていねいに塗装して下さい。また、塗膜が乾燥中にほこり、ごみなどが付かないような注意も必要です。

以上、木材塗装について簡単に説明しましたが、塗装は本を読んだり、話を聞くだけではなかなかうまくできません。例えば刷毛の使い方のコツは、「刷毛は約60°の角度で使う」、「刷毛は必ず往復させ返し刷毛をする」といっても実際に何回もやってみる経験が必要です。

また、DIY店、塗料店では相談に乗ってくれるところが多く、どんなものをどのように塗装したいかをいえば、適当な塗料、塗装方法を教えてくれます。そのための予備知識として、これまで書いてあることを憶えておけば多少役に立つのではないのでしょうか。

さあ、さっそく日曜大工の塗装に挑戦してみてください。  
**(林産試験場 高谷 典良)**